

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の結果について

1 調査の概要と目的

平成31年4月、平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査が、これまでの教育活動や教育施策の成果と課題等を把握・検証し、今後の教育活動に生かすことを目的として全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、悉皆調査として実施されました。

国の調査実施要領で謳われているとおり、本調査で測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえて調査結果を報告するものです。

なお、今年度の調査は、昨年度までの「主として『知識』に関する問題（A）」と「主として『活用』に関する問題（B）」を一体化して「知識と活用を一体的に問う調査問題」としています。また、中学校で英語調査が実施されました。

2 実施状況

(1) 調査実施日 平成31年4月18日（木）

(2) 実施項目

ア 児童生徒に対する調査

イ 教科に関する調査 国語、算数・数学、英語

① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

ロ 質問紙調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

ハ 学校に対する質問紙調査

学校を対象に、指導方法に関する、人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(3) 実施校数 小学校 35校 中学校 19校

(4) 実施人数 (単位：人)

	国語	算数・数学	英語	質問紙
小学校6年生	3,817	3,817		3,814
中学校3年生	3,364	3,372	3,373	3,366

3 平均正答率一覧表

(1) 藤沢市立小学校平均正答率 (単位：%)

	国語	算数
全国 (公立)	63.8	66.6
神奈川県 (公立)	61	67
藤沢市 (公立)	56	66

(2) 藤沢市立中学校平均正答率 (単位：%)

	国語	数学	英語
全国 (公立)	72.8	59.8	56.0
神奈川県 (公立)	73	59	59
藤沢市 (公立)	75	61	62

※国立教育政策研究所の報告書には、「全国の平均正答率（公立）の±10%の範囲内であれば、全国と大きな差は見られなかったと考える。」と表記されています。

出典：平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査報告書 令和元年7月 文部科学省 国立教育政策研究所

4 児童生徒に対する調査結果の概要と考察

(1) 教科に関する調査について

今回の教科に関する調査においては、国語では、「自分の考えの理由を明確にして読むこと」、「文章に表れているものの見方・考え方について自分の考えをもつこと」について、算数・数学では、「棒グラフの読み取り」や「三角形の合同条件」について、英語では、「情報を正確に聞き取ること」「文の中で適切に接続詞を用いること」について、よく理解できていることが分かりました。

特に、初めて調査が実施された英語では、各技能とも全国の平均正答率を上回りました。このことは、9年間を見通した本市の国際教育運営指針に則り、外国語指導講師（F L T）や国際理解協力員による学校訪問を行うなど、発達段階に応じた国際教育の推進を継続してきたことが、今回の結果につながっているものと考えます。

一方、国語では「書くこと」、算数・数学では「説明すること」、英語では「文と文のつながりに注意して、まとまりのある文章を書くこと」に課題がありました。小学校の国語においては、全国の平均正答率を下回る結果となりました。

これらの結果を踏まえ、学校は、新学習指導要領の主旨を理解し、児童生徒が自ら考え、課題を解決していけるような学習計画を作成することが大切です。小学校における国語については、他教科における話し合い活動や内容理解といった学びの土台となっていることから、文章を理解する力を育むことが大切です。

(2) 質問紙調査について

児童生徒の学習意欲や生活の諸側面等に関する質問紙調査では、「自分には、よいところがあると思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「先生は、あなたの良いところを認めてくれていると思いますか」において、肯定的な回答が多く見られました。自己肯定感や自己有用感についてはおおむね高いと言えます。一方で、中学生になると自己肯定感が下がることから、児童生徒が自己肯定感をもてるような環境づくりが大切です。

起床時刻、就寝時刻、朝食の摂取率など、基本的な生活習慣が身に付いている比率は高く、また、質問紙調査と教科に関する調査のクロス集計においては、基本的な生活習慣が身に付いている児童生徒が学力が高い傾向を示しています。しかしながら、一部に基本的な生活習慣が身に付いていない児童生徒がいることから、学校における児童生徒の基本的な生活習慣の把握に努め、児童生徒一人ひとりに生活習慣の改善や学習習慣の確立に向けて働きかけるとともに、保護者に向けても改善についての働きかけが必要です。

今後もさらに、児童生徒が自分自身の良い面に目を向け、自信をもって意欲的に学習に取り組めるよう、全ての教職員が児童生徒のよさを認め、大切にし、日々の教育活動に取り組ませることが大切です。

5 各教科における調査結果の特徴

(1) 小学校

【国語】

<おおむね理解しているとみられる内容>

- (資料として用いられている) 図表やグラフなどを用いた目的を捉えること
- 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えの理由を明確にしながらか読むこと

<課題があるとみられる内容>

- 目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと
- 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめること
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと

【算数】

<おおむね理解しているとみられる内容>

- 棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ること
- 示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し、適用すること

<課題があるとみられる内容>

- 示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述すること
- 加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすること
- 示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述すること

(2) 中学校

【国語】

<おおむね理解しているとみられる内容>

- 文章に表れているものの見方や考え方について自分の考えをもつこと
- 話し合いの話題や方向を捉えること

<課題があるとみられる内容>

- 封筒の書き方を理解して書くこと
- 話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつこと
- 文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつこと

【数学】

<おおむね理解しているとみられる内容>

- 平行移動の意味を理解すること
- 証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解すること
- 反例の意味を理解すること

<課題があるとみられる内容>

- 反比例の表から、 x と y の関係を式で表すこと
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること
- 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること

【英語】

<おおむね理解しているとみられる内容>

- 語と語の連結による音変化をとらえて、情報を正確に聞き取ること
- 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取ること
- 文の中で適切に接続詞を用いること

<課題があるとみられる内容>

- 聞いて把握した内容について、適切に応じること
- 書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるよう、話の内容や聞き手の意見などをとらえること
- 与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くこと

6 児童生徒質問紙調査に関する調査結果と特徴

※児童生徒質問紙にある質問項目のうち、本市の児童生徒の学力と関連のある質問項目について取り上げています。

※児童は「小学生」、生徒は「中学生」を表しています。

※時間数を問う設問を除いて、「あてはまる」「どちらかというにあてはまる」と回答した比率を合計しています。

(1) 結果

	質問項目	児童	生徒
学習に関する 関心・意欲等	国語の勉強が好き	58.9%	59.9%
	国語の勉強は大切だ	91.8%	88.4%
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	89.5%	86.3%
	国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしている	72.5%	67.8%
	算数〔数学〕の勉強が好き	66.9%	55.6%
	算数〔数学〕勉強は大切だ	93.2%	78.1%
	算数〔数学〕の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ	91.7%	68.1%
	英語の勉強が好き		56.5%
	英語の勉強は大切だ		85.9%
	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ		86.8%
	今まで受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていた		88.5%
課題解決学習	今までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	76.0%	74.1%
	今まで受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫した	63.2%	63.7%
	級友との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた	68.8%	69.4%
生活	朝食を毎日食べている	95.8%	93.3%
	就寝時刻が毎日ほぼ同じ	81.2%	74.8%
	起床時刻が毎日ほぼ同じ	90.3%	90.9%
	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話を する	76.7%	76.3%
	今住んでいる地域の行事に参加している	59.4%	38.3%

学習習慣・ 学習時間	読書は好き	70.4%	65.8%	
	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	67.0%	46.4%	
	平日に学校以外で勉強する時間	2時間以上	31.6%	49.7%
		1～2時間	25.7%	24.6%
		30分～1時間	23.7%	12.2%
		30分より少ない少ないか全くしない	18.9%	13.6%
その他	自分には、よいところがあると思いますか	82.9%	73.4%	
	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	82.8%	78.0%	
	学校のきまり〔規則〕を守っていますか	89.2%	96.3%	
	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	94.1%	93.5%	

(2)特徴

「学習に関する関心・意欲等」

- ・教科学習を大切だと考える児童生徒が80%前後と多いにもかかわらず、教科学習を「好き」であると回答した児童生徒は60%前後という状況である。
- ・国語、英語の教科学習で学んだことを実生活に結び付けて考えられる児童生徒は、昨年度より上昇し、約86%～92%であった。
- ・算数・数学の教科学習で学んだことを実生活に結び付けて考えられる児童生徒は、昨年度より上昇し、児童が約92%、生徒が約68%であった。
- ・今回調査が行われた英語では、授業において、スピーチやプレゼンテーションなど、多くの生徒が学んだことを生かし、伝え合う活動を経験している。

「課題解決学習」

- ・自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する等の学習活動の取り組みが進んでおり、伝えたり話し合ったりする中で、学びを深めている。

「生活習慣」

- ・起床時刻や就寝時刻、朝食の摂取率など、基本的な生活習慣は身に付いており、昨年度と比べても良い傾向を示している。

「学習習慣・学習時間」

- ・多くの児童生徒が、平日に学校以外で学習に取り組んでいるが、30分以下の児童生徒も約14%～19%いる。

「その他」

- ・「自分に良いところがある」と回答した児童は約83%、生徒は約73%であり、児童生徒の自己肯定感は、おおむね高いと言える。
- ・「人の役に立つ人間になりたい」と回答した児童生徒の割合が約95%であり、児童生徒の自己有用感は、高いと言える。

7 今後の教育活動に向けて

新しい学習指導要領の全面実施に向けて、小中学校ともに「主体的・対話的で深い学び」の視点から、学校全体での授業改善を目指し、授業の充実を図ることがより重要です。

さらに、小中合同の研修や教職員同士の交流の活性化を図り、9年間を見通した教育連携の充実を図っていくことが大切です。

(1) 教育委員会における今後の取組

ア 今年度の全国学力・学習状況調査の結果について、校長会等で各学校に周知します。また、教育委員会のホームページで公開し、広く保護者・市民の皆様へも情報提供します。

イ 本市の児童生徒は、自分の考えを書くことや説明することについて、課題が見られることから、改善に向けた工夫や取組の必要性を学校に対して働きかけるとともに、小中の連携を図るよう努めます。

ウ 新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で、深い学び」への授業改善の視点をもとに、一人ひとりの資質・能力の向上を図るための「わかる授業づくり」に向け、指導主事が各学校への計画訪問や要請訪問を通して、授業づくり等について指導を行います。

また、教員のキャリアステージごとの経験者研修を実施し、キャリアステージに応じた教員の資質と指導力の向上を図ります。

エ 教育文化センターにおいて、授業力向上にむけた「授業づくり」研修講座や「教科・領域」研修講座等を開催し、教員のスキルアップを図ります。

オ 教科に関する調査の結果と質問紙調査の結果をクロスした結果によれば、好ましい生活習慣の確立は、学力と密接な関係があることがわかりました。基本的な生活習慣や学習習慣の定着を目指し、計画的に家庭学習に取り組んでいくことができるよう、保護者に向けて、家庭での時間の使い方の改善について働きかけを行います。

(2) 学校における今後の取組

ア 全国学力・学習状況調査の結果を分析し、学校全体で結果を共有します。その際、学年会、教科会において児童生徒の課題となる点を話し合い、チームで授業実践を行っていきます。また、課題については指導計画等に反映させます。

イ 児童生徒への質問紙調査によると、教科学習を大切だと考える児童生徒が80%前後である反面、教科学習を「好き」と回答した児童生徒は60%前後という状況から、児童生徒が教科学習に興味・関心をもち、すべての児童生徒にとってわかりやすい授業・たのしい授業づくりをめざし、資質・能力の向上を図ります。

ウ 学力調査の取り組み方についての質問紙で、「最後まで解答を書こうと努力した」という回答が8割程度となっており、課題の解決に向けて自分で考えたり、自分の考えが伝わるよう工夫したりする姿勢が見られました。引き続き、どの教科・領域等においても、児童生徒が主体的に学習に参加し、対話を通して自分の考えを広げたり深めたりすることができる授業づくりを進めます。

- エ 全校に学習用タブレットPCや無線LANが整備され、ICT環境が整いました。新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」や「わかりやすい授業」の実現に向けて、ICT機器を適切に活用して学習活動の充実を図ります。
- オ 児童生徒一人ひとりが自分にあった学習方法を見つけ、自分で計画して自学自習を進められるよう、学習の手立て（学習の方法）を指導します。また、学校における児童生徒の基本的な生活習慣の把握に努め、生活習慣の改善や学習習慣の確立に向けて、児童生徒一人ひとりに働きかけるとともに、保護者に向けても改善についての働きかけを行います。